

2026年度 一般入試後期日程試験問題 (3月3日)

国語

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には、解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
- ① 受験番号欄
受験番号(英字及び数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- ② 氏名欄
氏名を記入しなさい。
- ③ 解答科目欄
解答する科目を1つ選び、科目の下の○にマークしなさい。マークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄に1つマークしなさい。例えば、5 と表示のある問いに対して①と解答する場合は、次の(例)のように解答番号5の解答欄の①にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄											
5	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		

- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国語

(解答番号

1

42)

問題文の中の「*」の記号は、原文にあったその直後の文が省略されていることを示しています。解答にあたって考慮する必要はありません。

甲乙

の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、出題の都合により一部省略・改変したところがある。

甲

人類は七〇〇万年前の出現以来、そのほとんどで遊動生活をしてきた。

最初の祖先は、ゴリラやチンパンジーとあまり変わらない生活をしてきたと考えられている。ア熱帯雨林の中を小集団で遊動しながら暮らしていたはずだ。その構成はまだ明らかになっていないが、ゴリラやチンパンジーは今も小集団で行動しているため、人類も同じだったはずである。

だが、ゴリラやチンパンジーと違い、人類はすでに七〇〇万年前に直立して二足で歩き始めていた。エネルギー効率の良い歩行で長距離を歩き、やがてサバンナへと出て行った。

では、そもそも人類は、なぜサバンナへと出て行ったのか。

ゴリラは、気候変動で、熱帯雨林がどんどん縮小していく中でも森から出ず、小さな森林に閉じこもるか、チンパンジーが生息できないような高い山に住む選択をした。高山は寒冷だが植物は生えている。食料は豊富にあるのだが、フルーツは育ちにくい。そのため、地面に生える草を食べて暮らした。そうやってゴリラは、新たな食性を身に付けたのだ。

チンパンジーは森が狭まる中で、移動距離を延ばす選択をした。断片化した森林を渡り歩き、フルーツを探す。aホウサクを講じた。そして少しかサバンナにも出た。

人類は森の中で、ゴリラやチンパンジーの祖先たちと食物や寝場所をめぐる競争を繰り返していった。だんだん居場所を失っていった。あくまで生き延びるための選択として森を出たのだが、その頃の人類は、好奇心という行動のゲンbセンをすでに獲得していたのかもしれない。

人類はサバンナで、新しい食物資源を手に入れ、森に戻らなくて済むようになった。森にいた時代に始めた直立二足歩行が徐々に完成され、長距離を歩けるようになっていったのだ。

四五〇万年前のアルデイドテクス・ラミダスは、数多くの化石が発掘され、一番よく復元されている原始人類だが、足はまだ

問三 傍線部イ「熱帯雨林がどんどん縮小していく中」でゴリラが取った行動にあてはまるものを、次の中から一つ選べ。

- ① 森を出て広範囲を移動するようになった。
- ② 競合相手であるチンパンジーを支配した
- ③ 低い山に住み雑食性を身に付けた。
- ④ 人類とともにサバンナに出た。
- ⑤ 高山に移動した。

9 (3.3 J)

問四 空欄 A に入る語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 步行
- ② 把握
- ③ 遊泳
- ④ 探索
- ⑤ 直立

9

問五 傍線部「水辺がとても危険な場所だったことは間違いない」ということから、人類の暮らしぶりを筆者はどのように推

- ① 川に水を飲みに行かなかった。
- ② 熱帯雨林にある川のそばに住まなかった。
- ③ 海や川をとっても恐れていた。
- ④ 川に住む魚介類を食べていなかった。
- ⑤ ワニのいない小さな池や湖、小川を渡り歩いていた。

— 7 —

問六 傍聴部工「ホモ・サビエンスが登場して言葉が生まれ」て何が可能になったのか。もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

11

- ① 他人の意図を深く理解し、集団間の敵対行動を減らすこと
- ② 自分の言葉で考えることから、計画的にとどまり、集団とのネットワークを強めることとする
- ③ 自分が未体験のこととがら、言葉で伝えること、計画を立てること
- ④ 言葉によって記録を取りながら、小集団で自立すること
- ⑤ 未経験のことを経験したかのようふるまっで、情報交換すること

10(3.3 J)

問七 空欄 B D に入る語としてもっとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを二度用いることはできない。

B 12 C 13 D 14

- ① あたかも
- ② たとえ
- ③ 恐らく
- ④ やがて
- ⑤ ところが

14

問八 空欄 I へ V には「ネアンデルタール人」「ホモ・サピエンス」のいずれかが入る。このうち「ネアンデルタール人」が入る箇所をすべて挙げたとき、もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

15

- $$\begin{array}{c}
 \textcircled{5} \quad \textcircled{1} \\
 \boxed{\text{II}} \quad \boxed{\text{I}} \\
 - \quad - \\
 \boxed{\text{III}} \quad \boxed{\text{III}} \\
 - \quad - \\
 \boxed{\text{V}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \textcircled{6} \quad \textcircled{2} \\
 \boxed{\text{II}} \quad \boxed{\text{I}} \\
 - \quad - \\
 \boxed{\text{IV}} \quad \boxed{\text{III}} \\
 - \quad - \\
 \boxed{\text{V}} \quad \boxed{\text{IV}} \\
 \quad - \\
 \quad \boxed{\text{V}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \textcircled{7} \quad \textcircled{3} \\
 \boxed{\text{III}} \quad \boxed{\text{I}} \\
 - \quad - \\
 \boxed{\text{V}} \quad \boxed{\text{III}} \\
 \quad - \\
 \quad \boxed{\text{V}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \textcircled{4} \\
 \boxed{\text{II}} \\
 - \\
 \boxed{\text{III}} \\
 - \\
 \boxed{\text{IV}}
 \end{array}$$

15

問九 空欄 E に入る語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 武器
② 仲間
③ 道具
④ 火
⑤ 食物

16

問十 傍線部才「遊動生活」において見られなかったことは何か。もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 所有という概念
- ② 平等な生活
- ③ 分配と共食
- ④ 弱者の庇護
- ⑤ 対等な関係

17

問十一 波線部(1)「トウ」・(2)「テツ」を漢字になおすとき、その部首として適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

- ① てへん
- ② こごとへん
- ③ たけかんむり
- ④ にすい
- ⑤ こめへん

(1)
18
(2)
19

問十二 **甲** の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

20

- ① 人類は二六〇万年前にダチョウの胃を取り出して水を運ぶ容器として使うようになった。
- ② チンパンジーはオレクとサバンナを頻繁に行き来し、移動距離を短延ばしていった。
- ③ アウストロピテカスは足で木を掴む能力を活かし、森の中の生活が続けた。
- ④ 遊動生活では、規則がないからに統治者の支配が必要だった。
- ⑤ 人類は長距離を歩けるようになり、また、サバンナで新しい生物資源を手に入れた。

— 9 —

今後、「第二の遊動」時代が到来すると私は考えている

肉肉に感じるかもしれないが、人類に文明生活をもたらした科学技術のさらなる進展が、遊動の感覚や生活を甦らせてくれるのだ。

今、交通手段の発展により、安価にいくらでも遠くへ行けるようになった。例えば東京から沖縄まで飛行機の往復が数千円で可能なこともある。グローバルな時代とは誰もが自由に移動できる時代で、国境を越えることにも昔ほどの制約はなくなった。

今、人のある場所に引き止めておく縁、日本社会でいえば地縁、血縁、社縁がなくなりつつある。日本は明治以来、富国強兵政策によって農家の次男、三男が都会に招集され、様々な職業に就いた。〔w〕しかしその子孫もすでに四世代目となって入国にビザが要らない国もたくさんある。移動が自由になったことで個人を縛る縁がきわめて薄くなっているのだ。〔v〕

いる。かつて地方から東京や大阪などの大都市に移住してきた人たちがその子孫にとって、^a 留留父母の
 くなっているはずだ。だが東京や大阪が自分の故郷かと問われると、それも違うと感じるだろう。【x】

これは血縁においても同様である。冠婚ソウ **G** サイにたくさんの親族が参加することもなくなった。盆 **F** に会して儀式を行うケースは少なくなっているだろう。【**Y**】そうなると、親族同士が

助け合う機会も減ってくる。つまり血縁も薄れてきているのだ。【Z】幕じまいをして永代供養をする人も増えているし、少子化の時代に、この流れはさらに加速するだろう。

人をつなぎ止めていた縁がどんどん消失し、ヴァーチャルな縁で動く時代になった。ネット上の情報や、ネットで知り合った人たちと仲間になり、いろいろなところに出かけていくという時代なのである。

これが「**カ**第二の遊動」時代の変化なのだ。かつてのように、移動が当たり前で、所有や縄張りという概念がなかった時代に、現代人は非常に近づいてきている。^{*}

人間の祖先は七〇〇万年前に類人猿の祖先から分かれ、しだいにジャングルからサバンナへと進出した。ジャングルを離れた理由としては、森が小さくなりゴリラやチンパンジーとの競合があった可能性をすでに指摘した。しかし、なぜ危険なはずのサ

11(3.3 J)

12(3.3 J)

— 10 —

パンナで生き延びられたのかなど、人類のサバンナ進出について、まだたくさん疑問が残っている。その秘密を解く鍵は、現代の人間、すなわち私たちの体と心のどこに宿っているはずだ。

ジャングルはすべての生物にとってのコモンズである。コモンズとは「共有財」という意味で、誰もが平等に利用できる資産のことだ。ジャングルには多種多様な生物が共存し、それぞれの種がその特徴に応じてジャングルを利用し、調和関係を保って生きている。このジャングルの生態系こそが、コモンズの原型だと思うのだが、現代人は、その記憶を忘れてしまっているのではないか。

狩猟採集生活をしてきた頃の人間の身体は、他の動物と同じように、移動する土地ごとの資源でつくられていた。人間の数も、利用する資源の量も、**ク**自然の価値を超えることはなかった。

人類が農耕牧畜を始めた頃、地球上の人口はわずかに五〇〇万人くらいだったと推測されている。**H**、そこから人類は自らの手で食料を増産し、貯蔵し、どんどん人口を増やしていった。効率の良いシユウ**h**カクのための知識を増やし、肥料を改良するなどして生産量を増やす。**I**、交易を通じて他の地方と食料を交換するようになり、ついに自然界にはない食料すらも生産できるようになった。**J**、全世界で八〇億という途方もない数にまで人口を増大した。

その結果、コモンズという重要な概念は、土地と切り離されるようになってしまった。それぞれの土地の自然環境に適應しようとする意識は薄れ、どこも同じような環境を整えようとした。世界の熱帯雨林はほとんど牧草地や畑に変わり、野生動物の生息する森林は人工林を含めても世界の陸地の三割ほどになるまで減少した。近年の気候変動も新型コロナウイルスに代表されるパンデミックも、人間の大量な介入によって、自然のバランスが崩れたことが要因の一つだろう。

私たちはもう一度、ジャングルの生態系と狩猟採集時代の共存の原理を学ぶべきではないか。もちろん今すぐ狩猟採集時代に戻れと言いたいわけではない。自分たちが暮らしている土地には歴史があり、自然があり、そこで育まれてきた文化もある。そこに目を向けるのだ。

かつて、人間が自然の一部として調和を保っていた頃、そこにはあらゆるいのちのちがつながら、バランスを保って共存

していた。人間が犯した大きなあやまちらは、土地や自然を人間だけが利用できるものにつくり変えてしまったところにある。人工的なものを大に持ち込み、自然と文化のバランスを崩してしまった。調和が保たれ、多様性の宝庫だった熱帯雨林を牧草地に変え、野生動物と共存していた細菌やウイルスが変異し、家畜を通じて人間にまで感染をを広げた。二酸化炭素などの温室効果ガスを大量に排出して急激な温暖化を招き、化学物質によって大気や河川や**ド**ジョウを汚染した。さらには原発事故まで起こしてしまった。地球の生態系を成り立たせるために必要な大気、水、土地が汚染されて、しだいに利用できなくなりつつある。

地球は**K**だけのものではない。地球には、生物が多様に共存する生態系があったのだ。科学技術によって地球のコモンズを**コ**ガツせてはいけなく、利用するにしても、**ケ**賦維持しながら利用しなければならぬ。今、私たちは文明の転換期に立っている。

人間の社会は三つの自由によってつくられている。動く自由、集まる自由、対話する自由である。人間は毎日動いて、さまざまな場所に出向いて集まり、そこで語り合い、他者と交流することによって生きる喜びを得る。サルや類人猿と比べ、人間はこの三つの自由を拡大してきた歴史がある。

サルも類人猿も年間に動く範囲は決まっており、熱帯や亜熱帯の森で暮らすサルたちは**せいぜい**一平方キロメートルの範囲が生活圏だ。草原や、日本のように雪の降る地域で暮らすサルはもう少し広く三〇平方キロメートルに及ぶこともある。これは食物の量や分布によって、探す地域の広さが決まるからだ。熱帯雨林は一年中、緑の葉が生い茂り、熟した果実は手に入りやすい。しかし森の外では乾季が長くなり、木々が葉を落として、果実の得られない季節が長くなり、ときに、日本の冬は木々が雪に埋もれてしまうため、冬眠できず、**X**シカやイノシシのように何でも食べられる胃腸があるわけでもない。**Y**ニホンザルは、冬芽や樹皮、雪に埋もれたドングリなどを採しながら、広い範囲で歩き回らなければならない。

Zゴリラやチンパンジーなどの類人猿は、サルよりもさらに胃腸の働きが弱いため、熟した果実が豊富にある熱帯雨林から離れられない。サルより広い範囲を動き回ったとしても、年間二〇平方キロメートルほどである。

同じ森にすむクミールと呼ばれる狩猟採集民は、年間一〇〇平方キロメートル以上、サバンナで暮らすブッシュマンと呼ばれる

13(3.3J)

- 11 -

14(3.3J)

- 12 -

る狩猟採集民は、数百平方キロメートル、ときには一〇〇〇平方キロメートルに及ぶ範囲を歩き回って暮らしている。集団に参加する自由度も、人間とサルでは大きく異なる。群れをつくるサルたちは集団への帰属意識を強く持ち、めつたに群れから離れない。ニホンザルのメスは生涯自分の生まれ育った群れを離れないし、オスは群れをわたり歩くが、所属する群れを一度でも離れたら元の群れにはなかなか戻れない。もし他の群れにすることがあっても、先住者であるオスやメスたちのご機嫌をうかがいながら控えめな態度をとる。もし群れに受け入れられても、しばらくはオスの序列の中で最下位に甘んじる。

サルや類人猿と比べると、人間は集団の出入りに関して許容度かなり高いといえるだろう。私たちは日々、家庭や会社や取引先やご近所といった複数の異なる集団に出入りしながら暮らしており、それぞれの集団で違う顔を持っている。この多層的な社会は、都会でも地方でも変わらない。この違いこそ、人間の社会の大きな特徴なのだ。

このようなことが可能なのは、人間の中に帰属意識とともに自己犠牲を払っても集団のために尽くすという独特な社会性があるからだろう。多くの人は、自分がどのような集団に所属しているかを意識し続けており、それがアイデンティティの一つになっている。帰属意識があるからこそ、ほかの集団を行き来しても、いつかは戻れるという安心感を持てるし、自己犠牲を**β**厭わないからこの他の集団に受け入れられるのだ。

(山極壽一「共感革命 社交する人類の進化と未来」による)

問十三 二重傍線部**g**のカタカナを漢字に直す。適切なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

g ソウサイ	① 殺	② 済	③ 載	④ 祭	⑤ 際
h シユウカク	① 客	② 括	③ 画	④ 角	⑤ 穫
i ドジョウ	① 壊	② 条	③ 状	④ 情	⑤ 淨
j コカツ	① 喝	② 渴	③ 括	④ 活	⑤ 割

24 23 22 21

- 13 -

問十四 波線部**α**の意味としても最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

α 曾祖父	① 父母の父母	② 母方の祖父	③ 父方の祖父
β 厭(う)	① ほこる	② 望む	③ いやがる
	④ うらむ	⑤ けなす	

26 25

問十五 〔**v**〕〔**z**〕のいずれかに以下の文が入る。その箇所としても最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

現代人の多くは、故郷を持っていないと実感するケースが増えたのではないか。

① 〔**v**〕 ② 〔**w**〕 ③ 〔**x**〕 ④ 〔**y**〕 ⑤ 〔**z**〕

27

問十六 空欄**F**に入る語としても最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

G 祭	① 裁	② 暮	③ 踊	④ 日	⑤ 花
F 祭	① 裁	② 暮	③ 踊	④ 日	⑤ 花
① 一樣	② 一同	③ 一斉	④ 一群	⑤ 一挙	⑥ 一堂

29 28

- 14 -

16(3.3J)

15(3.3J)

問十七 傍線部カ「第二の遊動」時代の「変化」に含まれるもつとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① ヴァーチャルな緑で、いろいろなところに出かけていくようになった。
- ② 交通手段が発展する中、故郷や親族との関係が深まった。
- ③ 故郷や親族との関係が途切れて、ネット上の情報だけに依存する時代になった。
- ④ 科学技術のさらなる進展の一方で、ヴァーチャルな世界の情報が盲信されるようになった。
- ⑤ 地緑、血縁、社縁がなくなりつつあることで、ネット上のフレイク情報に気付きにくくなった。

30

17(3.3J)

問十八 傍線部キ「その記憶」の内容としてもつとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① ジャングルには多種多様な生物が共存し、それぞれの種がその特徴に応じてジャングルを利用できるよう、人類が開発のあり方について再検討したこと
- ② ジャングルには多種多様な生物が共存し、人類は生き延びるためにジャングルを出て、移動先のサバンナを切り開いていったこと
- ③ ジャングルには多種多様な生物が共存し、人類がジャングルをすべての生物の共有財と位置付け、積極的に管理していたこと
- ④ ジャングルには多種多様な生物が共存し、人類がそのジャングルを平等に利用するために、ルールを定めて生物を従わせていたこと
- ⑤ ジャングルには多種多様な生物が共存し、それぞれの種がその特徴に応じてジャングルを利用し、人類もその中で調和関係を保って生きていたこと

31

— 15 —

問十九 傍線部ク「自然の関係を超越する」というのが、もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 人間の活動が自然と乖離する。
- ② 人間の活動が自然のバランスを崩す。
- ③ 人間の活動が自然に取り込まれる。
- ④ 人間の活動が自然を回復させる。
- ⑤ 人間の活動が自然を支配する。

32

18(3.3J)

問二十 空欄 H J に入る語句としてもつとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを二度用いることはできない。

- ① さらに ② そこは ③ もしかして ④ しかし ⑤ 今となつては

H 33 I 34 J 35

問二十一 空欄 K に入る語句としてもつとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 文明 ② 人間 ③ 生物 ④ 他者 ⑤ 社会

36

— 16 —

問二十二 傍線部ケ「賢く維持しながら利用」することに反することからは何か。もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 人間が温室効果ガスの排出を抑制すること
- ② 自然と文化のバランスを整えること
- ③ 資源を利用し続けられるようにすること
- ④ 自然を人間本位につくり変えること
- ⑤ 生物が多様に生きる生態系を保持すること

37

問二十三 傍線部コ「せいぜい一平方キロメートルの範囲が生活圏」である理由としてもつとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 熱帯や亜熱帯の森が狭められてしまったから。
- ② 乾季が長くその範囲を歩き回れば果実を得ることができるから。
- ③ 冬でも冬芽や樹皮、ドングリなどを取ることができるから。
- ④ 冬眠せずに、雪に埋もれた木々の芽を食べることができから。
- ⑤ その範囲で食べ物を得られて生命が維持できるから。

38

19(3.3J)

問二十四 破線部 X「シカやイノシシ」、Y「ホンザル」、Z「ゴリラやチンパンジー」を、胃腸の働きが強いものから順に並べた場合、どうなるか。次の中から適当なものを一つ選べ。

- ① X、Y、Z ② X、Z、Y ③ Y、X、Z
- ④ Y、Z、X ⑤ Z、X、Y ⑥ Z、Y、X

39

— 17 —

問二十五 甲乙の内容から分かる、類人猿がしない・できないことで、人間がする・できることがら何か。もつとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 自己犠牲を払ってでも、一度入った集団の外に出ないこと
- ② 土地や自然を利用すること
- ③ 生活環境の変化に応じて、新たな食性を身に付けること
- ④ 様々な集団を自由に行き来し、それぞれの集団で違う顔を持つこと
- ⑤ 食べ物を得るために外敵を排除すること

40

問二十六 甲乙の内容に合致するものを次の中から二つ選べ。なお、解答の順は問わない。

- ① 人を特定の場所に引き止めておく縁が消失し、あらゆる人間関係が分断される時代になっている。
- ② ニホンザルのオスは群れを離れると、その後他の群れに入った場合でも控えめな態度をとる。
- ③ 人間は土地や自然を動物と共有できるものにつくり変えてきた。
- ④ 現代人は所有や縄張りという概念を失っている。
- ⑤ 地球に出現して以来、人類は遊動生活を長く続けてきたが、その期間のうち半分は定住生活をしてきた。
- ⑥ 人類は食物を採集し、安全な場所に隠れている仲間に分配することによって、定住するようになった。
- ⑦ 人類は非常に平等な社会を営んでいたが、定住して以降、所有の有無で人の価値が決まるようになった。

41 42

20(3.3J)

— 18 —

入試	日程	科目	大問	執筆者名	書名	発行所	クレジット
公募	11/19	国語		佐倉 統	科学とはなにか 新しい科学論、いま必要な三つの視点	講談社	
公募	11/20	国語		小堀 謙一郎	死を生ける 訪問診療医がみた709人の生老病死	朝日新聞出版	
公募	12/13	国語	甲乙	立川 昭二	病気の社会史	岩波書店	
一般	前期 1/26	国語	甲乙丙	廣野 由美子	シンデレラはどこへ行ったのか 少女小説と『ジェイン・エア』	岩波書店	
一般	前期 1/26	日本史	I-D	一瀬上人	『新撰日本史』所収 一遍上人 聖絵「福圓の市」	浜島書店	清浄光寺(遊行寺)蔵
一般	前期 1/26	日本史	I-F ①	葛飾 北斎	『浮城二十七年書』山下白画	山川出版社	山口県立美術館・浦上記念館 所蔵
一般	前期 1/26	日本史	I-F ②	歌川 広重	『詳説日本史』所収 「名所江戸百景 亀戸屋敷」	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nich.go.jp/)
一般	前期 1/26	日本史	I-F ③	歌川 国芳	『詳説日本史』所収 「船中若小入 巻五」	山川出版社	たばこと塩の博物館所蔵
一般	前期 1/26	日本史	I-F ④	菱川 師宣	『詳説日本史』所収 「見渡り美人図」	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nich.go.jp/)
一般	前期 1/26	世界史	I	古田 元夫	世界史リブレット42 アジアのナショナリズム	山川出版社	
一般	前期 1/26	政治 経済	Ⅲ	青木 真兵	『西洋史の扉をひらく』(上)田耕造・入江幸二・比佐篤 編 著	晃洋書房	
一般	前期 1/27	国語	甲乙	今井 むつみ	学力喪失 認知科学による回復への道筋	岩波書店	
一般	前期 1/27	日本史	I-L	渡辺 崋山	『詳説日本史』所収 「産皇石像」	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nich.go.jp/)
一般	前期 1/27	世界史	I	木谷 勤	世界史リブレット40 帝国主義と世界の一体化	山川出版社	
一般	前期 1/27	政治 経済	I-問5		朝日新聞 2025年5月3日 (天声人語)「個人」の重さ	朝日新聞社	朝日新聞 2025年5月3日 天声人語「個人」の重さ 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。 承諾番号:28-0898
一般	前期 1/27	政治 経済	Ⅲ		日本経済新聞 2025年1月6日 社説 多様な生き方へ社会の襟を広げよ	日本経済新聞社	日本経済新聞 2025年1月6日 社説 多様な生き方へ社会の襟を広げよ 利用許諾番号:No.002374
一般	前期 1/28	国語	甲乙丙	松永 伸司	雑誌「広告」Vol.417所収 「まじめな遊び、ふざけた遊び」	博報堂	
一般	前期 2/5	国語	甲乙	イェンヌ・ダムベリノ著 久山葉子ノ訳	脂肪と人類 渴望と嫌悪の歴史	新潮社	Fett : En historia om smak, skräk och starka begär by Jenny Damberg. © Jenny Damberg 2019. Reproduced with permission of Ordfront förlag.
一般	前期 2/5	日本史	I-C		『詳説日本史図録』所収 本朝(皇朝)十二銭	山川出版社	日本銀行金融研究所貨幣博物館
一般	前期 2/5	日本史	I-C		『詳説日本史』所収 寛永銭	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nich.go.jp/)
一般	前期 2/5	日本史	I-F		『詳説日本史』所収 「南蛮屏風」	山川出版社	「南蛮屏風」神戸市立博物館所蔵 o神戸市立博物館イメージ・ガイド/DNPart.com 許可なく複製することを禁止する。
一般	前期 2/5	世界史	I	山本 文彦	神聖ローマ帝国 「強国なる大國」の牽役	中央公論新社	
一般	前期 2/5	世界史	Ⅱ	三浦 徹	アジア人物史 第7巻近世の帝国の繁栄とヨーロッパ 巻頭言	集英社	
一般	前期 2/5	政治 経済	I		日本経済新聞 2025年1月1日 社説 変革に挑み次世代に希望をつなごう	日本経済新聞社	日本経済新聞 2025年1月1日 社説 変革に挑み次世代に希望をつなごう 利用許諾番号:No.002374
一般	前期 2/5	政治 経済	Ⅲ	平野 克己	経済大陸アフリカ 資源・食糧問題から開発政策まで	中央公論新社	
一般	前期 2/6	国語	甲乙	溝井 裕一	動物園の文化史 ひとと動物の5000年	勉誠社	
一般	後期 3/3	国語	甲乙	山根 壽一	共感革命 社交する人類の進化と未来	河出書房新社	
公募	11/19	英語	I	Élia Borrás	The Guardian Thu 6 Feb 2025 "We water, rest, water": the green belt of vegetable plots cooling a city	Guardian News & Media	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
公募	11/20	英語	I	Albert Stumm	VOA Learning English November 26, 2024 Group Helos People Exercise Outdoors	VOA News →Associated Press	
公募	12/13	英語	I	JoNel Aleccia	VOA Learning English December 23, 2024 New US Food Guidelines: Eat Less Meat, More Beans	VOA News →Associated Press	
一般	前期 1/26	英語	II	CHIKA YAMAMOTO	The Asahi Shimbun December 11, 2024 Japan again ranks at or near top of survey on adult skills	朝日新聞社	The Asahi Shimbun December 11, 2024 Japan again ranks at or near top of survey on adult skills 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。 承諾番号:28-0898
一般	前期 1/27	英語	II	Ayuko Kato	The Japan Times Oct 19, 2024 Supporting women's participation in economics and	The Japan Times	The Japan Times, Oct 19, 2024
一般	前期 1/28	英語	I	GAVIN BLAIR	The new Japan Times: reborn at 120	Foreign Correspondents' Club of Japan	The new Japan Times: reborn at 120 by Gavin Blair. Reproduced with permission of the author.
一般	前期 1/28	英語	II	Alexa St. John Jennifer McDermott	VOA Learning English October 22, 2024 Big Tech Companies Aim to Develop Small Nuclear Reactors	VOA News →Associated Press	
一般	前期 2/5	英語	I	IEEE Computer Society	University World News 15 November 2024 How research can support cyber and data security and privacy	University World News	How research can support cyber and data security and data security and privacy by IEEE Computer Society from University world news, Nov 15, 2024.
一般	前期 2/6	英語	I	Angela Symons	Euronews 20/03/2024 Only seven countries in the world breathe safe air. Three of them are in Europe	Euronews	Only seven countries in the world breathe safe air. Three of them are in Europe by Angela Symons from Euronews, Mar 20, 2024. Reproduced with permission of Euronews.
一般	前期 2/6	英語	II	Vincent Moleveld	Online Gallery 30 September - 2024 The Nintendo Uji Ogura Plant: From Factory to Museum of Nostalgia	Online Gallery	The Nintendo Uji Ogura Plant: From Factory to Museum of Nostalgia by Vincent Moleveld, Online Gallery, Sep 30, 2024. Reproduced with permission of the author.
一般	後期 3/3	英語	I	El Hunt	The Guardian Thu 6 Feb 2025 The long black: will this soon be the UK's favourite coffee order?	Guardian News & Media	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	後期 3/3	英語	II	Didi Tang	The Asahi Shimbun March 12, 2025 China's shipbuilding dominance poses economic and national security risks for the U.S., a report says	朝日新聞社 →Associated Press	
一般	最終日程 英・国総合型	英語	I	Ayaka Kaji Kensuke Fukushima	The Japan News December 4, 2025 World's Top Fashion Brands Make Strides in Sustainability; Paris Fashion Week Provides Competition for Eco-Fashion	読売新聞社	2025年12月4日 The Japan Newsより改変